



生活クラブ北海道 機関誌

チュブとはアイヌ語で太陽、月の意味

6 月号

2026 No. 521



## 海を育む森づくり

2002 年、生活クラブ北海道は創立 20 周年記念事業のひとつとして、古平町の山奥に放置されていた 5 ヘクタールの牧場跡地を購入。古平の人たちと共に育てる森づくりの思いを込め、「フィービラの森」と名付けました。森が豊かになれば、その栄養分が海に流れ美味しい魚を育てるという良い循環が生まれます。二酸化炭素削減など環境活動においても、とても重要な場所でもあります。今年の森開きは熊出没の影響から、メンバーのみで行いました。雪解けが早かったせいか桜は散っていましたが、かわいい野草や森の動物の営みを垣間見ることができました。今後も、生活クラブの森づくりを伝える企画を考えていきます。豊かな森を未来へつないでいく活動をぜひ応援してください。〈5/2 森づくりプロジェクト〉

### 紙パックで森づくり

牛乳やヨーグルトの紙パックを回収し、その売却金を森の手入れなどに役立てています。回収は毎月第 1 週です。みんなで森づくりへ参加しましょう。



昨年度の売却金はおよ 9 万円でした

### INDEX

|                                         |     |                     |   |
|-----------------------------------------|-----|---------------------|---|
| 40 年目の<br>4.26 チェルノブイリデー市民集会            | 3   | あみーかによる拡大活動をお伝えします  | 6 |
| 講演 生活クラブ 2030 行動宣言<br>生活クラブでつながわたしたちの未来 | 4~5 | 映画を観てヒロシマ・ナガサキを考えよう | 7 |

# 生活クラブ Wind



## 組織活動

6月の総代会を終え、今年度の施策が実行されていきます。その一つとして、班の結成が3人以上から可能になりました。配達無料・4%値引きなどのメリットがあるのはもちろん組合員同士のつながりが生まれる楽しみがあります。9月注文10月配達から実施されるので、同じマンションや近所の人に「生活クラブを始めてみない？」と声をかけてみませんか。



消費材を楽しく暮らしに取り入れる提案をする「チームクラブ」が、今年もスタートしました。消費材のゆる献立や買い方を、チュウパや支部機関紙などで伝えたいと思います。



## 消費委員会

米登録していますか？ 毎日食べるものだから、安心なおいしいお米を食いたいですね。生活クラブ米の生産者は、とんぼの会です。江部乙農協と提携して40年、会が結成されて30年。毎年様々な交流を重ね、関係性はますます深くなっています。私たち組合員が生産者の顔を思い浮かべるように、生産者の皆さんも組合員のことを考えながら米作りをしています。作り続けてもらい食へ続けていくことが、農業生産の未来につながります。

5月の田植えに続き、7月は田んぼの生き物調査、9月は稲刈りを行います。これからも多くの組合員と江部乙町を訪ねて交流していきます。



## 原発ゼロ・市民エネルギー委員会

4・26チエルノブイリデー市民集会には、100人もの組合員が参加。大飯原発運転差し止め判決を出した樋口英明元裁判長の講演会後、「泊原発再稼働反対」のメッセージを掲げパレードしました。一人ひとりが市民として意思表示することが大切です。7月25〜26日に開催される幌延サマーキャンプでは、現地で全国の仲間と交流し、核ゴミの問題について学び考えます。毎年、家族連れで参加する組合員もいます。幌延町ゆめ地創館では、核ゴミの研究の展示なども見学できます。ぜひ参加して、私たちができることを一緒に考えましょう。ホームページの生活クラブニュースをご覧ください。



## 福祉・たすけあい

2013年にスタートした生活クラブのオリジナル共済「ハグくみ」は、「わたしたちに本当に必要な保障を自分たちでつくり育てていく」という考えから生まれました。制度改定にも組合員の声が反映されている、生活クラブの「もうひとつの消費材」です。



掛け金は月千円。0〜64歳まで加入でき、女性は70歳、男性は67歳まで保障が続きます。退院後にフーカーズによるケアサービスを受けることもできるなど、組合員同士のたすけあいの思いを大切にしています。詳しく知りたい方は配送センターまでお問い合わせください。

## 5月の理事会から

● 外部団体主催イベント「ボヌールプチ」と「山の蜜の市」に出展する目的と、出店料等の報告がありました。

● さまざまな経営リスクに備えるため、日本生協連の賠償責任保険加入を決定しました。

● 鶏卵パックへの「オイ移りや、衣服についた合成香料に悩む組合員の声を受け行う、職員・フーカーズ向け香害学習会の内容を確認しました。

● 昨今のインク不足を受け、6月から理事会の資料を印刷ではなくデータ配信することを確認しました。

● たすけあいと共済からつながる組合員拡大をすすめるため、生活クラブグループ共済推進研究会への参加報告を受けました。

# 40年目の 4.26 チェルノブイリデー市民集会

1986年4月26日に起きたチェルノブイリ原発事故を教訓に、同じ悲劇を繰り返さないよう他団体と連携しながら市民集会を開催し、今年で40年目を迎えました。「原発を動かしてはいけない理由」と題した樋口元裁判長の講演と、幌延・泊などの現状報告をお伝えします。

## 原発ゼロ・市民エネルギー委員会 富塚 とも子

およそ300人の参加者を前に、樋口さんは「裁判官は判決後に弁明しない」という慣例に触れつつ、それでも発言する理由を「福島原発事故後の原発再稼働は、耐えがたいほど正義に反するから」と語りました。また、世論が原発再稼働に傾くのは原発問題を難しいエネルギー問題だと誤解しているからで、実はその本質はたった二つだけ。一つは、事故時には人が管理し続けなければ暴走すること。もう一つは、暴走した際の被害は国を滅ぼすほど甚大であること。「原発は自国に向けた核兵器」とも述べ、脱原発の正当性を広く伝えてほしいと呼びかけました。憲法の根幹である人権尊重と法の支配にも触れ、「原発のない社会は不可能ではない。無知は罪、無口はもっと罪です。沈黙せず声を上げてください」と訴えました。最後に、ネルソン・マンデラ氏の言葉「何事も成功するまでは不可能に思える」を引用し、講演を締めくくりました。



講師の樋口英明さん。1952年、三重県生まれ。福井地裁の裁判長として、2014年5月に関西電力大飯原発3・4号機の運転差し止めを命じる判決を下した



立ち見も出るほど、高い関心が集まりました

チェルノブイリ原発事故から40年、東京電力福島第一原発事故から15年が経ちました。国が「原発回帰」を進めるなか、世論調査では再稼働容認が反対を上回る状況です。昨年12月には鈴木知事が泊原発の再稼働に同意し、北電は2027年の泊原発再稼働に向けて動きを加速させています。まずは、あなた大切な人2人に樋口さんが話された原発の本質を語り、脱原発を世論にしていきたいと思います。

## 各地からの現状報告

佐藤 英行さん(後志・原発とエネルギーを考える会)  
山路 弦太さん 森次 敬一さん(核廃棄物施設誘致に反対する道北連絡協議会)  
三木 信香さん(子どもたちに核のゴミのない寿都を! 町民の会)  
鈴木 哉美さん(「避難の権利」を求める原発避難者の会/前 東川町議)



鈴木知事は地元4町村の同意を得たとして、泊原発3号機の再稼働への同意を表明した。経済や脱炭素への貢献を理由にしているが、地元では漁業者や商店が大幅に減少しており、避難計画の矛盾も露呈している。〈佐藤さん〉

3.11後、子ども2人を連れて東川町に自主避難。現在は札幌在住。今、ストレスに感じることは原発の再稼働。〈鈴木さん〉

幌延の深地層研究は20年の約束が守られず、2029年3月末まで9年延長された。私たちは、終了と埋め戻しの工程を速やかに明示するよう訴えている。道庁交渉には全道の声が不可欠。道北だけでなく北海道全体の問題として考えてほしい。〈山路さん 森次さん〉



文献調査終了から3年、住民投票が行われるのかもわからずモヤモヤしている。NUMOは「分断なんて無い」と言っているが、実際は違う、苦しめられている。考え方が違う人も同じ地元同士。昔の寿都に戻せるように活動している。〈三木さん〉



# 生活クラブでつなぐわたしたちの未来

生活クラブ連合会 顧問 伊藤由理子さん

2015年に国連で合意された「持続可能な開発目標（SDGs）」は、2030年までの達成をめざし、世界各国・地域・企業・協同組合など多様な主体でさまざまな取り組みがすすめられています。

〈主催 組織活動推進会議 4/18 かでる2.7〉



いとう ゆりこ さん  
生活クラブ連合会前会長。  
2022年から現職

## 次世代に対する責任

生活クラブがSDGsに取り組み提案をした時、組合員から「SDGsで言われていること、もうやっているじゃない」と、冷やかな反応が多くありました。

持続可能な地球環境や生産資源、生産者が持っている生産する技術や流通する力、そして平和や人権尊重があつて生活クラブの共同購入は成り立ちます。しかし環境危機が進む今、その一つひとつが崩れようとしています。ましてや、戦争や虐殺まで起きている。この状況で黙っていたら共同購入手業さえできなく

なる、という危機感が大きくあります。SDGsは「残念だったね、また頑張ろう」では済まない問題。未来の世代に対する責任として、しがみついてもやっていくべき課題です。問題意識を共有し、生活のあり方ひとつを変えるところから、取り組み人を一人でも増やす。協同組合として本当に重要なことです。

## 生活クラブ2030行動宣言

まず、二酸化炭素削減や再生エネの開発、SDGsの独自の行

まるで温室みたい



地球の加熱化

温室効果ガスが増え、吸収した太陽熱を放出できない。温暖化を止めるには、ガスの排出を減らすしかない

動宣言を作るなど、5つの実践

を盛り込んだ「気候危機宣言」

（2020年）を発表しました。

次に、独自の行動宣言の検討を3段階に分けて進めることにしました。第1次（2020年）

では、これまでやってきた『消費材』『エネルギー』『福祉・た

すけあい』の取り組みを整理し、

「もうやっているじゃない」が実

際どこまでできているか、取り

残しはなにかを洗い出しました。

例えば、消費材の加工原料で一

部使用されているパーム油は産

地が確認できておらず、原料生

産の場では森林伐採や児童労働

等の有無が不明でした。このよ

うに、これまでの取り組みでさ

らに推進すべきことを「第一次

生活クラブ2030行動宣言」、

重要目標8と取組方針28にま

とめ、行動指針を示しました。

## 連合会

会の事業を利用する会員生協（単協）によって構成される「生活協同組合の連合会」



## 単協

独立して事業を行う単位生協（生活クラブ北海道 含）。全国に33あり、総組合員数は約42万人

第2次（2022年）は、連合会

だけでなく単協からも意見を集

めて検討しました。生活クラブ

が未達成であった「気候や災害

への危機対策」「ジェンダー平等

と多様な働き方の実現」「他団体

と連携した環境保全活動」が新

たに加わり、重要目標が11、取

組方針が44になりました。

第3次は現在、ビジネスと人

権、人を育てながらそれを力に

経営していくウェルビーイング

経営、自然環境の維持回復を

すべての活動の前提にするネイ

チャーポジティブ、3つのテーマ



生活クラブはSDGsの理念に先んじ、かつどこまらない活動を実行します。



を検討しています。学習会をしたり、単協の理事会から意見をもらったりして修正・成文化し、6月の連合総会に諮（はか）られます。他にも、重要目標の一番上を「食料主権」から「人権尊重」に入れ替える、表現の変更、項目削除など、単協と細かいやり取りをしながら作っています。

取り組み姿勢として、自分たちの考えや思いだけで完結しないことが重要だと考えています。国際的な動向や日本政府の方針のチェックだけでなく、一般企業や他生協がやっていることも情報収集し、学べるものは学んで取り入れます。自発的・積極的な情報開示としては、第1次宣言から毎年冊子を出して情報を開示。また、常に第三者のチェッ

クを受ける姿勢で臨むことも貫いています。

## 社会が変わるチャンス

仕事柄、海外のいろいろな市民団体と交流をするなかで、言葉や生活環境が違ったとしても食べ物が間に入ると仲良くなれると気づきました。自然なもの、添加物が少ないものがないというような食の価値感、生き方の価値観につながっています。

例えば生活クラブがやっている旅行事業、モンゴルのゲルに泊まる、サハラ砂漠でラクダに乗るみたいなツアーがあつて、それにお一人で参加する70〜80代の組合員がいます。聞くと、「みんな組合員ですよ。すぐ友達になれちゃう」とのこと。同じ消費材を食べているから、どの国に行っても豚肉料理が出ると「平田牧場の肉はおいしいのよ」みたいに盛り上がるそう。

他にも、ニューヨークのど真ん中にある市民農園では様々な国から来た移民が野菜を植え、それで自国の料理を交代で作っています。言葉が通じなくても一緒にご飯を食べると仲良くなるし、何かあったら子どもを預ける関係まで生まれる。やっぱり食べ

物の力つてすごく強いんです。

環境に良いことをしていると宣伝しつつ実はやっていないグリーンウォッシュ、

誰もが知っている大企業でも問題になりました。反面、本業を見直して新たな取り組みを始めた頼もしい企業もあります。SDGSで社会貢献を宣伝する企業が増えると、生活クラブがずっと一生涯やってきたことが埋没してしまう側面も出てきました。でも、何かをやつてど



れだけ売れたら効果が出るという物差しの企業と生活クラブはまったく違います。生活や購買先を変えていく、人の生活の仕方が変わっていくのが生活クラブ。だから組合員が増えると、街づくりや地球環境を考える人が増えることになるのです。

SDGSは社会が変わるチャンスだと思えますし、今、企業はその本業を問われています。生活クラブは本業に自信があるわけじゃないですか。本業として、すでに先んじている。後から追いつかれたことに気を取られず、もっと先に行くことをやっていきたい。そのために、組合員や利用する力を増やさなくてはいいなと思います。

## 未来をつくる選択

組合員がケチャップを買う時、北海道でポチつても東京でポチつても、みんなコーミさんに注文がいきますよね。スーパーにたくさんケチャップが並んでいますが、全国40万人の組合員の注文の方が生産に与える影響が大きいです。地域をあまり必要とせずに力を発揮できるのが共同購入です。一方、生活や地域においては組合員だけで多くのことを動かさません。だから地域の人たち、組合員以外の人たちとも一緒にやっていくのです。共同購入がタテ糸、組織活動がヨコ糸だとすると、織り成す布のデザインをどうするかを考えるのが組織活動。みんなで話し合つて「共同購入はこれを強めよう」「こういう所にも声をかけよう」となれば楽しくなつていきます。

若い世代は男性も女性もライフスタイルが変化して、今までとは違う暮らし方や関係性になつてきている。そういう人たちの価値観もどんどん入れ込んでいくなから、新しい活動を作っていくことが重要です。生活クラブを通じて人と人が出会い、新しい街づくりが広がるいいなと思います。〈取材／五十嵐〉

## 委員研修を行いました

午後は引き続き伊藤さんを講師に、拡大活動の意味を学びました。研修テーマは「“おおぜいの私”との出会いのために」。私の困りごとが誰かの困りごとともつながっているとお話から、拡大活動が人と出会って思いを交わしながら、生活を通して地域や社会に関心を持ち、活動する仲間を増やすことだと感じました。

生活クラブの拡大は単に組合員を増やすだけではなく、増やすことで社会を変えていく取り組みです。



協同組合や生協には、生産者とともに地域を活性化していく可能性があることも学びました。少子高齢化や社会環境の変化が進む今だからこそ、生活クラブが培ってきた食や福祉、環境、石けん、エネルギーなどの取り組みを、その人にとってどんな役割を持つのか認めながら伝えていく大切さを感じました。伊藤さんの「生活クラブに共感する人は必ずいます。元気に、楽しく、おおらかに、多彩なアイデアで発信していきましょう」という言葉が心に残る研修でした。

〈副理事長 石黒真理〉



## 厚別 支部

5月18日、今年度初めて厚別中央公園横で行いました。例年GW明けに、地域のフリーペーパー『まんまる新聞』に広告を掲載し、厚別区ほぼ全域の52,000世帯に生活クラブのチラシを折り込んでいます。

当日は曇天でチラシが飛んでしまうほどの強風で、いつもなら何組かいるはずの親子連れの姿もありませんでした。「あらあ、どうしましょう」と不安になりましたが、開始早々から来場者が途切れず、てんやわんやの大忙し。冷蔵品や計画品は品切れが続出、プレゼント用のサンプル品も足りなくなったので、急きょ支部負担でツナパウチをお渡ししました。22人の来場者に生活クラブを伝えつくした

1日でした。

〈運営委員長 高下 洋子〉



## 小樽 支部



5/9 小樽市役所前

毎年、4月の一斉チラシまきに合わせて開催する年度初めの拡大は、誰もが行きやすい場所で、在宅率の高そうなGW明けの土曜日に行います。組合員1人10枚のチラシまきのおかげもあって、いつも来場者が多いです。

今年はあいにくの雨で全体の来場こそ少なかったものの、一緒に来た友人に推しの消費材を説明してくれる元組合員や、インスタを見て来たという若い夫婦がウイナーや梅びしおなどを購入してくれました。また、マーマレードを楽しみに来たけれど欠品でがっかりしていた方に加入をすすめたり、「加入したいけど雨なので会場へ行けない」という方のお宅へ伺い加入用紙に記入してもらったりと、非常に実りのある日になりました。

〈運営委員 三ツ江 真理子〉

### 展示説明車

# あみーかによる 拡大活動をお伝えします



## 北広島 支部

5月16日に行った拡大には15人の来場があり、うち組合員外は12人（元組合員も複数）でした。4月の一斉チラシに挟み込んだ支部イベント情報を見て来た方が多く、インスタを見ての来場もありました。また、「野菜小分けマルシェ」も同時に開催。大きすぎたり、たくさんだったりする農産物を分け合うもので、昨年からはじめ4回目になります。あみーかの消費材と一緒に新鮮な野菜を購入し、「調理が楽しみ」という声も。また、配達が難しいと思っていた自宅マンションに組合員がいると知った方が、その場で加入してくれました。

加入を検討される方の多くは、組合員とのつながりがきっかけです。ぜひ友人や知人に声をかけ、まずは生活クラブを知ってもらうこと、関心を持ってもらうことから始められたらいいと思います。

〈運営委員 及川 舞〉



生活クラブ館・北広島

あみーか運行の日程は  
生活クラブのHPをチェック！  
お友だちを誘って行ってみてね





# 映画を観て

# ヒロシマ・ナガサキを考えよう



世界各地で紛争が絶えないなか、私たちはどのように「平和」を紡いでいけばよいのでしょうか。戦争体験者が年々減少していく今、「私たちができる平和の作り方」を参加者とともに考えました。

〈主催 文化委員会 5/2 札幌エルプラザ〉

文化委員会は「平和」を基盤として、憲法学習など様々な角度から平和活動をしています。その一環として映画上映会をおこなっており、今回は『はだしのゲン1・2』※1、『長崎一閃光の影でー』※2の3本を上映しました。10時から15時半までの長丁場にもかかわらず多くの方が最後まで観てくださり、30分間の昼食時には、『戦争のつくりかた』と『日弁連 緊急事態条項』の動画も流しました。

この企画は、戦争や核兵器の恐ろしさ、平和憲法がいかに大切かを組合員に知ってもらうことが目的です。生活クラブ北海道独自の活動、「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」に関心を持ってもらうため、会場に昨年のヒロシマ平和行動の写真パネルを展示。

委員が持ち寄った戦争に関する絵本や『はだしのゲン』の漫画も、多くの方が手に取っていました。

当日は、高校生平和大使だった大学生や親子で参加している組合員もいて、平和を考える良い機会となりました。また、「日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める」署名や平和行動へのカンパ、温かい声掛けもいただくことができ感謝しています。寄せられた感想に共通していたのは「戦争はいやだ、核はいけない、平和は尊い」ということ。参加者と一体感を持つことができた上映会でした。

〈文化委員 下田 恭子〉

※1 作者の広島での被爆体験をもとにした漫画のアニメ映画

※2 被爆者救護にあたった日赤看護師の手記をもとにした映画

## 参加者の感想

10～80代の36人が参加しました

1度だけでなく何度も継続していかなければ、平和や戦争について自分で考えることが少なくなってしまう。今回参加できてよかった。(50代)

学校でも戦争について学んだけど、二度と戦争がおきてほしくないと思いました。命の尊さもあらためて実感しました。(10代)

なぜ、人間は歴史を学ばないのでしょうか。なぜ、対話で解決できないのか。戦争は嫌だと声をあげないと！小さな、小さな声でも。(60代)

『はだしのゲン2』では、投下から3年後の少しずつ復興する様子が描かれていた。戦後の広島・長崎について調べてみようと思った。(30代)

戦後80年、日本が戦争に巻き込まれることなく済んだのは憲法9条のおかげ。平和国家として世界的な認識があればこそだったと思います。戦争はダメ！(70代)

今の政治家に、この映画を観てもらい、国民一人ひとりを大切にする事を考えていただきたい。(80代)



平和祈念像の前で(2024年)

被爆地を訪れて戦争の被害と加害の両面を知る「ヒロシマ・ナガサキ平和行動」。29回目となる今年は、8月7～9日に長崎を訪問します。

10月に報告集会を開催します  
ぜひ来てください



# information

## みんなの居場所 うたりんご 1 周年

豊平区における多世代交流の場 うたりんごの1周年を祝い、「お花見とぼたもちの会」を開催しました。窓から見える見事な桜を満



57人が来てくれました(4/29)

喫しながらぼたもちをいただき、ゆったりした時間を過ごしました。この1年でたくさんの方と出会えたこと、見守ってくれた方がいたことに感謝します。これからも、さらに地域の居場所となるよう育てていきたいと思ひます。

〈福祉担当理事会 山崎 栄子〉

## つながるミルクメッセージアクション



牛乳の生産者・酪農家の皆さんへ、組合員からのメッセージや写真・動画を届けます。

募集期間：6/1～7/25

本部消費委員会

本ページに記載しているイベント等の詳細・申し込みは、ホームページの生活クラブニュースをご覧ください。



右上のQRコードから、または「生活クラブ北海道ホームページ」トップ画面上部「組合員ページ」→「生活クラブニュース」からご覧いただけます。

問合せ：生活クラブ本部 TEL 011(887)8891

## 2026年度 せっけん使おう!

### 7月はシャボン玉月間

生活クラブ北海道は、全国の仲間たちと「せっけん運動ネットワーク」を構成し、活動しています。1984年から毎年7月をシャボン玉月間として、「合成洗剤ではなくせっけんを使いましょう」とポスターで広く市民へ呼びかけています。今年度もポスターができあがりました。各支部に配布し、公共施設などに掲示していきます。〈石けん運動委員会〉※詳しくは「せっけん運動ネットワーク」のHPをご覧ください



## せせらぎスクール

日時 7月4日(土) 10:00～12:00

場所 星置川(札幌市手稲区)

内容 川に棲む生きものの観察を通して水環境を学ぶフィールドワーク。講師は、川の学習会等をおこなっている板谷利久先生。私たちが使っている石けんと川にはどんな関係があるのか、一緒に考えてみませんか。

主催 石けん運動委員会

申込締切  
6/19

## 幌延サマーキャンプ

日時 7月25日(土)～26日(日)

内容 幌延町では、2001年から「核のゴミ」を地中に埋め捨てるための深地層研究が進められています。全国交流会や、地元の方々との交流を通して現状を知り、核のゴミについて考えます。申込締切：7月4日

主催 幌延サマーキャンプ実行委員会



## 母は反面教師

豊平支部 日下田 博美

父が亡くなった後、北見で一人暮らしを満喫していた母。5年ほど前に認知症の症状が出始め、札幌の介護付き有料施設に入居することになった。母はお金を使うことが好きな性格だったため、案の定、通帳の残高はゼロに等しく、年金と自宅を売却した数百万が全財産。まず、金額と場所の条件が合う施設を探した。どんな施設に入居できるかは、持っているお金が物言いつことを学ばせてもらった。

私自身は、認知症を予防するための運動、サブリ、ボランティアで社会との繋がり、楽器カリンバの習い事など忙しい。母がどれも興味が無かったことである。先日、私に介護保険証が届いた。あなたも高齢者ですと宣告された気がした。確実に年は取る。健康寿命を延ばしつつ、やりたいことは我慢せず実行することが、今の私のポリシーである。母は症状が進み、昨年グループホームに入所した。面会に行くと、差し入れを美味しくに食べながら「私は幸せだ」と笑っている。

組合員のエッセイを募集します。400字程度。テーマの指定はありません。本部中瀬まで、ファックスか業務便で送ってください。



道産 道産間伐材を配合した紙を使用しています